

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000213		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	たのしい家桂(1)		
所在地	京都市西京区桂稻荷山町12-2		
自己評価作成日	令和3年4月8日	評価結果市町村受理日	令和3年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2694000213-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和3年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションを行い笑い、笑顔の絶えない施設です。認知症でもその人らしく、生活できるよう支援しております。職員も入居者様と関わりを持ち賑やかな施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは笑顔に繋がるような支援を大切にしており、利用者のことを知り掃除や洗濯物を干しなど家事に携わりやりがいを持って生活できるよう支援したり、食べたいものを聞き鰻や天ぷら等を献立に取り入れたり、おはぎやぜんざい等のおやつ作りをする等楽しみのある暮らしに向けた支援に取り組んでいます。家族には毎月手紙や写真を送りコロナ禍でも利用者の日々の様子を伝えるよう努め、届け物のための来訪時や電話の際に意見や要望を聞いており、受診や面会についての質問に答えたり、モート面会を取り入れています。また管理者は職員とコミュニケーションを図り意見を言いやすいよう配慮するとともに利用者や家族の立場に立った支援を考え、思いにそって医療連携体制を整え看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を職員で考えて各フロア等に掲示、共有し実践している	法人理念の基ホーム独自の理念を掲げ、笑顔に繋がるような支援を大切に、職員は日々笑顔で関わり会話やレクリエーションを楽しんでもらえるよう心がけています。また会議等でも利用者の立場に立って考えることを伝えながら理念の実践に繋げて言います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域とのつながり出来ていない	自治会に加入し以前は地域行事に参加したり、社会福祉協議会や自治会の会合に談話室を解放する他、地域に向け認知症に関する講演会を行っていました。現在は回覧板で地域の情報を得たり、自治会長の交代に伴い挨拶に行く等繋がりを継続しています。また談話室の解放について問い合わせがあり、感染症収束後に行いたいと考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の地域会議に出席しグループホームとは何かを説明			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で外部の方の参加は無し	運営推進会議は家族や自治会長、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催し、利用者状況や事故、防災訓練等ホームの情報を伝え意見交換をしていました。コロナ禍となりホーム開催とし議事録を参加していた方に送っています。地域包括支援センター職員の意見を受け、事故の対策まで議事録に載せるようにしたり、情報提供後に意見をもらえるよう取り組む予定です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新、事故報告等で相談している	手続き等で必要な際は区役所に出向き、相談等は電話で聞いています。コロナ禍においてはアンケート調査に答えたり、感染症等の注意喚起がファックスで届き職員に周知し、オンラインでの研修案内が届き申し込んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で年2回の身体拘束についての研修を実施。	身体拘束についての研修を2回行い、身体拘束適正化委員会を運営推進会議で行い、またセルフチェックを年に1度実施し職員は知識を身に付けています。行動を止めるような言葉かけの無いように注意を払い、フロア入口の施錠はしていますが外に行きたい様子の方には寄り添い話をしたり玄関先に出る等の支援をしています。不適切な対応があれば都度注意しています。安全に移動してもらうためのセンサーマットの使用の方もいますが、介護計画に挙げ家族の同意を得て定期的に必要性を検討しています。		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の高齢者虐待についての研修を実施		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修を実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に説明し契約時にも十分時間をとり説明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関での来訪時意見聞いたり、本社から年1回お客様満足アンケートを実施している	利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き、食べたいものの希望を聞くことが多く鰻や天ぷら等献立に反映しています。家族には毎月手紙や写真を送り日々の様子を伝え、届け物のための来訪時や電話の際に意見や要望を聞いたり、年に1度の満足度アンケートを行っています。受診や面会についての質問があり答えたり、リモート面会も取り入れながら意見を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議を月1回実施。本社より従業員満足度アンケートが配布され職員の意見、提案を運営に反映されている。	毎月全体会議とフロア会議を行い、フロア会議では個々の利用者のケアに対する意見を聞き話し合ったり業務改善等についても検討しています。管理者は日々職員が意見を言いやすいようコミュニケーションを図り、年に2回行う個人面談でも意見や思いを聞いています。行事毎に都度担当者を決めて主体的に行ってもらっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び人事、キャリア段位制度、自己申告シート、ほめカードの活用		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社での研修、資格修得のフォローを行う		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長、計画作成担当者、ユニットリーダー各会議を開催。地域の連絡会にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を共有しコミュニケーションを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際家族様の話を十分に聞き迅速に対応する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが適しているかをご家族、本人様と話し合いより良いサービスの提供を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って張り合いのある生活の提供		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に介護に参加していただけるように声をかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でいまは難しい	以前には知人や親せきの来訪や家族と法事や墓参りに出かける方もいましたが、コロナ禍では難しい状況です。家族との電話でやり取りができるよう支援し、年賀状や手紙が届きその方に電話したいとの希望があり電話をかけ会話を楽しんだ方もいます。	

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話や顔なじみで安心できるよう支援している。困っている方を助けている姿がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後も何か困ったことあればいつでも相談にのる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様に意思決定して頂く。自立支援しつつ手助けをする。	入居前に本人や家族に面談し生活歴や趣味嗜好、習慣、一日の過ごし方などを聞いたり、担当のケアマネジャーからも情報を得て思いや暮らし方の希望の把握に繋がっています。入居後の関わりの中で得られた情報や気付きは個人記録やフロア連絡、申し送りシート等に記載し職員間で共有しています。意思疎通困難な方等の思いは、家族に聞いたり日々のカンファレンスやフロア会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々コミュニケーションを図り馴染みある暮らしを提供		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握をしカンファレンス等で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き把握する	本人や家族の思い、アセスメントの基、サービス担当者会議を行い介護計画を作成し、3か月毎にモニタリングを行い6か月毎に評価し見直しています。利用者に変化があればフロア会議で検討し見直しに繋げ、見直しにあたっては再アセスメントを行い家族の意向を聞いたり、主治医や看護師等の意見を聴取しサービス担当者会議を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや記録等を活用し職員間で情報共有している		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携、歯科、散髪、福祉用具等活用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努める。できるだけ多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診またはかかりつけ医の継続の説明を行う。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在は全員がホームの協力医の往診を月に2回受け、24時間連携体制で往診日以外にも電話で相談し対応しています。訪問看護師による健康管理を週に1回受け。専門医への受診は家族が対応し、訪問歯科や精神科の往診を必要に応じて受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護。必要に応じて適切な医療機関への連携、施設内での対応アドバイスを行う		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクター、医療機関等、家族様と連携をとり現状の把握・情報交換をし退院に向けての支援を行う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の指針を説明。本人、ご家族の意向をもとに看取り介護を行う	入居時に重要事項説明書の中にある重度化や終末期の対応に係る指針にそって説明しています。実際に重度化した場合に改めて家族と医師、職員とが話し合いを行い方針を決め看護師の訪問時にも意見交換をし短期間での介護計画を作成し支援しています。コロナ禍にも感染対策を行い家族には短時間の面会に来てもらい意向を確認し、医療連携を図りながら支援しています。また年に一度研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議・カンファレンス等で定期的に全職員に説明、実践できるように指導する		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、年2回消防訓練を実施。	年に2回行う消防訓練の内消防署と設備会社の立ち会いの下昼夜を想定し、通報装置の使い方の確認や初期消火、避難誘導を実施しています。水害についてのマニュアルを備え、災害時は垂直避難を予定しています。自治会や近隣に案内したり運営推進会議で報告しています。3日分の食料や水、ランタン、懐中電灯、簡易トイレなどの備品を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意している。愛情のこもった対応を指導している	接遇マナーや認知症、虐待防止の研修を行い、利用者の尊厳を大切に丁寧語で温かみのある言葉かけを心がけています。本人や家族の要望でわかりやすい名前で呼ぶことはありますが、馴れ馴れしくなるなど不適切な対応があれば都度注意しています。またセルフチェックシートを用いて職員が自己チェックし振り返る機会を作っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や希望を取り入れ自己決定ができにくい方は選択できるように配慮する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしをたのしく暮らしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容で好みの髪型にしてもらう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に好みの食べ物、飲み物をご本人、家族様に聞き出来る限り提供する。	業者の旬や行事に合わせた献立にてそって食材が届き調理したり温めて提供し、食器を洗ったりテーブルを拭く等利用者のできることに携わってもらっています。お節料理は取り寄せやホームで作り、食べたいものに合わせて鰻やお好み焼き等を楽しんでもらっています。おはぎや善哉、ホットケーキを作ることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録に残している。入居者様の状態を把握している。		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行う。訪問歯科で口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導、声掛けの実施	個人記録から排泄パターンを把握し、仕草や様子を観ながら個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。重度の方も座位の保てる方は日中はトイレでの排泄を支援し、日々の申し送りやカンファレンスの中で支援方法や排泄用品を検討しおむつから紙パンツの使用への変更やパッドを小さくする等自立に向かうよう支援しています。ポータブルトイレを使用したり布の下着で過ごしている方もおり現状維持できるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日確認し便秘にならぬよう水分、ヨーグルト等提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低限度の入浴を施行。体調悪い時は無理して入らず、次の日に入ってもらおうようにしている。	入浴は週に2回午前の時間帯を基本に支援し、希望があれば午後や回数を増やすことも可能です。一人ずつ湯を入れ替え、好みの湯温やペースでコミュニケーションを図りながら入浴してもらっています。好みのシャンプーを持参する方がいたり歌を歌いながら入る方もおり入浴を楽しんでもらっています。拒否される方は職員を交代したり時間や日を変えて無理のない入浴に繋げています。また希望があれば同性介助での対応も可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯・起床時間を設定していない。個々の生活習慣を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるのかを把握するよう指導している。症状の変化は職員で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事レクリエーション、体操、おはぎ作り等室内レクリエーションを行っている。		

たのしい家桂(1)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いまはコロナ禍でできていない	以前は初詣や桜まつり、散歩などの外出する機会がありましたが、コロナ禍では洗濯物を干したり、玄関先で花を見る等外に出る機会を作っています。今年は感染者数が少なくなった時にドライブで松尾大社に桜を観に出かけることができました。現在庭の手入れを行い外気浴等に活用していきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は自己管理できる方がいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた環境で過ごせるよう配色、電飾の色など配慮している。壁に季節のものを飾っている。	共有空間は行事の写真を掲示し利用者が見たり、季節ごとに手作りで飾りつけをして季節を感じてもらっています。利用者同士の関係性に配慮したり車いすで安全に動けるよう座席や配置を変更しています。大きな窓がありカーテンで日差しを調整したりテレビ前のソファで寛いでいる方もおり心地よく過ごせるよう支援しています。毎日換気や掃除、消毒を行い清潔保持にも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ってきたり写真飾ったりしている	入居時に使い慣れたものや馴染みのものを持ってきてもらうよう説明し、タンスや椅子、テレビ、大切にしている仏壇等を持参し、本人や家族と相談し配置を決めています。写真や人形、ぬいぐるみ、色紙等を飾っている方もおりその人らしい居室となるよう支援しています。週に2回可能な利用者と一緒に清掃を行い、毎日換気やカーテンの開け閉めで訪室した際に必要があれば掃除をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単に様々なものを使用することができるように配慮している		